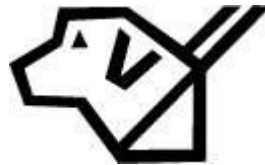


2020（令和2）年度
事業計画書

自 2020（令和2）年 4月 1日
至 2021（令和3）年 3月31日



公益財団法人 日本盲導犬協会

1. 盲導犬育成事業

本年度（2020年度）は、①各拠点再整備、②人材育成、③盲導犬の質、訓練効率の向上、この3つをテーマとした施策を実施する。特に、拠点責任者を担える人材の育成と訓練士学校による訓練士の養成に重点を置いた上で、盲導犬育成の各工程（繁殖・出産～PW～ケンネル・医療及び研究～盲導犬訓練～共同訓練～アフターケアの一連したプロセス）における標準化と技術向上によるQCD（クオリティー・コスト・デリバリー）の更なる向上を目指す。年間盲導犬ユニット作出目標数は35ユニットとする。ユーザーが安心して盲導犬と生活し、安全に歩いてもらえる盲導犬の安定的育成基盤の強化を図る。

（1）視覚障害者に対する歩行指導及び盲導犬貸与

本年度の盲導犬育成目標を35ユニットとし、視覚障害者へ盲導犬を貸与する。

（2）盲導犬の認定等

①海外等他団体の育成犬を盲導犬として認定し、当協会の正規の使用者証である「認定証」、②海外からの旅行者に「期間限定証明書」の発行を実施する。

（3）犬の飼育及び訓練

①候補犬の訓練

本年度新たに候補犬110頭を訓練する。共同訓練に供するまでに、TP(Task Performance)1、TP2、TPQの3段階のテストを行う。神奈川・仙台訓練センターを訓練重点拠点と位置付けて、他拠点との訓練課題の進捗に応じ、訓練士による相互評価や訓練犬移動などを適宜行い、協会全体の訓練効率を向上していく。

②繁殖

計画的な繁殖・出産・譲渡により、100頭以上を目標とした子犬（パピー）を安定確保する。また繁殖犬の安定飼養頭数に取り組むと共に出産適齢を管理する。健康なパピーの出産と発育、安全で安心な産前産後をはかるために、繁殖犬・幼犬の飼育指導改善、健康理由・稟性理由によるCC犬の減少、ユーザーとの組み合わせに適したタイプの犬を出産させることを目指し、育種価の向上等交配計画改善に重点を置く。

③パピーウォーキング委託

100頭のパピーをパピーウォーカー（PW）に委託する。

パピー飼育期間に、パピーの早期社会化、早期学習、早期評価検証データの蓄積等の取り組みを更に改善し、PWの理解と協力を得て早期課題解決に取り組む。

また、対象パピーに対する評価や観察力を向上する為の環境整備を継続する。

④島根あさひ盲導犬パピープログラム

盲導犬パピープログラム12年目は対象犬を4頭とし、より効果的、効率的なプログラムを検討・実施する。そこで得られた知見を、一般のパピープログラムへの応用を図る。

⑤引退犬飼育

本年度内に予定される盲導犬の引退は20頭である。富士ハーネス引退犬棟及び引退犬飼育ボランティアと連携し、引退犬のQOL向上に努める。

⑥犬舎・医療管理

引き続き、訓練犬の健康・健全状態を維持するため、ケネル業務の質の向上と効率化を図る。獣医師の指導に基づき、疾患の早期発見、発病件数の軽減をすすめ、盲導犬育成訓練成功率の向上を支える。加えて大学獣医科病院・専門医における医療協力体制の拡充や緊急医療体制も更に強化する。

(4) 盲導犬ユーザーに対するフォローアップ (F U)

①定期F U、②問題解決F U、③その他に分類されるF Uのうち、特に共同訓練直後～1年以内のアフターケア期間の充実をはかる。

貸与後1年以内のユーザーを対象に宿泊型F Uとして拠点毎に盲導犬新ユニット出発式を実施する。通年では盲導犬歩行状況等情報に基づき、歩行安全性確保のために各訓練センターあるいは現地での問題解決F Uを行う。加えて犬年齢6歳時を対象に集中型のF Uを定着させる。

(5) 盲導犬訓練技術の向上

盲導犬訓練工程の課題は、訓練技術強化、訓練期間の短縮と成功率の向上である。

盲導犬訓練士、盲導犬歩行指導員の基礎訓練・共同訓練技術の向上をはかるため、技術評価、スキルマップの活用による計画的O J T、集合研修を行う。

また共同訓練工程では、T P Qテスト合格犬を使用予定者に合わせてカスタマイズ訓練をすることでマッチング適正率をより向上させる。

加えて、盲導犬歩行に関する実務的な研究を行い、新たな技術・手法等の習得や研究発表大会を開催し、訓練士間での共有を図る。歩行支援技術の研究にも取り組み、安心安全歩行に繋がる補助具開発を継続する。

(6) 各種研修会への参加

協会内教育や各種研修会等への参加、自己研鑽や自主研究を奨励する。

(7) 犬舎・施設改修整備

訓練センターの役割・盲導犬育成規模、新たな犬舎機能、福祉施設としての社会的役割などを検討し、訓練センター整備基本計画を作成する。その計画に基づき、狭隘化・設備老朽化の神奈川訓練センター犬舎の改築計画および広島訓練拠点建設計画を作成および仙台訓練センター・富士ハーネスの大規模修繕計画を作成実施する。

2. 盲導犬歩行指導員等育成事業

2020年度は昨年度再開した盲導犬訓練士学校を安定的運営し、人材確保・訓練技術向上をさらに進める。

- (1) 盲導犬訓練士（GDT）の養成を計画実施する。
訓練士学校2年生として5名、1年生として6名を養成する。
- (2) 盲導犬歩行指導員（GDI）の養成
盲導犬訓練士有資格者（歩行指導員研修生）に対して、連合会主催の盲導犬歩行指導員資格試験の受験を推薦できる指導技術レベルに達するように計画的に指導する。
- (3) 盲導犬歩行指導力のレベルアップ
白杖歩行指導員養成のプログラムを実施し、盲導犬使用者に対する指導力のレベルアップをはかる。

3. 調査研究事業

盲導犬の質の確保、健康面の改善、成功率の向上を目的に調査・研究活動を推進する。

- (1) 盲導犬の人工繁殖・育種技術の研究の継続および疾患改善の調査
繁殖技術向上を目的に受胎率向上（排卵日予測など）、皮膚疾患低減や緩和要因解明、犬の四象限分析による繁殖犬毎の傾向分析と交配組合せ適正化等に取り組む。
- (2) 大学との研究協力・連携
 - ①新規気質評価への協力により、遺伝子解析含め盲導犬成功率との関連性解明に継続して協力する。
 - ②イヌのストレス応答性の研究協力
 - ③GDBartスコアの提供により育種価算出研究
 - ④東京大学盲導犬歩行学講座において、盲導犬ゲノムプロジェクトに協力し、出現する確率の高い遺伝子共通疾患の解明に取り組む。また稟性（気質）とゲノムとの関連性解明に着手する。

4. ユーザーサポート事業

- (1) 盲導犬歩行についての理解促進とリハビリテーション相談
視覚障害リハビリテーション団体、視覚支援学校、眼科医および障害福祉関係団体と連携して、視覚障害者の移動に関するリハビリテーション相談及び説明会等を実施する。そして、盲導犬歩行について視覚障害者に正確な情報を提供し、深い理解の促進をはかり、一人でも多くの盲導犬希望者を募る。また、盲導犬希望者に対して“事前訓練”など共同訓練に向けた準備を適宜サポートしていく。

盲導犬体験歩行会	85回
盲導犬説明会	32回

(2) ユーザーコミュニケーション

盲導犬だけでなく視覚障害リハビリテーションに関する情報提供や相談によって犬の技術面以外においてもユーザーをサポートする。訓練部と連携し、盲導犬ユーザーの満足度向上のため、以下の事を実施する。

- ① 盲導犬ユーザーに対して、技術的なFU以外の側面において情報提供や各種相談に応じる。
- ② 盲導犬ユーザーからの聞き取りにより、盲導犬歩行状況や健康・生活状況を把握し、盲導犬歩行上の課題の早期発見につとめ、訓練部によるFU実施につなげる。
- ③ 盲導犬6歳時コミュニケーション会の実施。各訓練センターに6歳の盲導犬を使用する盲導犬ユーザーを集め、必要なFU、犬の健康診断と飼育アドバイスを行う。

(3) 視覚障害者在宅生活訓練（視覚支援学校での白杖歩行訓練も含む）

640コマ以内の在宅訓練を実施する。

(4) 視覚障害リハビリテーション相談

盲導犬希望者、盲導犬ユーザー、短期リハ希望者、歩行訓練希望者、その他視覚障害者の相談に応じる。

(5) 短期リハビリテーション

スマイルワン仙台で5回開催する。訓練センター外での現地短期リハビリテーションや中学生を対象とした学生短期リハビリテーションを開催する。

(6) 視覚障害児キャンプ

スマイルワン仙台で開催する。将来の盲導犬ユーザーを育て、視覚障害児のQOLの向上に貢献する。

(7) 各種研修会への参加

- ① 各種学会等への研究発表を促進し、職員を派遣する。
- ② 協会内研修会を開催し、リハビリテーション技術の向上をはかる。

(8) 生活講習会の開催

iPhoneの使い方や化粧など視覚障害者の生活のニーズに沿った講習会を開催する。ユーザー家族向けや東日本大震災被災地域での視覚障害支援に関する講習会を開催する。センター近隣の関係団体の要望に応じ、講習会を開催する。

(9) パートナーズを年4回発行する

5. 普及啓発事業

盲導犬を知ってもらう普及事業から盲導犬の受け入れ拒否のない社会づくりを目指した啓発活動により重点をおき、視覚障害当事者を含めた社会全体が盲導犬歩行を視覚障害者の一つの歩行手段として正しく理解できるよう情報を発信する。

視覚障害者が盲導犬と共に行きたい時に行きたい場所に行くことができる、受け入れ拒否の無い、事故を未然に防ぐことができる、視覚障害者をあたたかい目で支える社会をつくる一翼を担っていく。そして、支援者との笑顔のコミュニケーションを大切に、「Heart to Heart」の精神で普及啓発活動に取り組む。

(1) センター内啓発活動

各訓練センターでは、多くの市民・団体の方々に盲導犬デモンストレーションや、盲導犬ユーザーの講話を提供する。視覚障害者の介添方法などの体験学習を通して、視覚障害者が社会参加しやすい社会を醸成していく。

① 富士ハーネス

個人・団体の見学者を積極的に受け入れ、盲導犬デモンストレーションやふれあいを通して、盲導犬と視覚障害への正しい理解の促進と最新の情報提供を行う。

② その他のセンター

定期的な見学会を実施。盲導犬ユーザーの講話や、手引きや視覚障害体験等を通して、盲導犬と視覚障害に対する理解促進をはかる。また、学校・団体からの依頼に対し見学会を行い福祉教育の一翼を担う。

(2) センター外啓発活動

多くの市民が集うさまざまな場所へ盲導犬の受け入れ促進、盲導犬と視覚障害への正しい理解につなげるため積極的に訪問する。盲導犬デモンストレーションや盲導犬体験歩行、ふれあい活動を実施し、多くの情報を発信する。

① 盲導犬小中学校キャラバン

全国の小中学校への訪問活動を積極的に実施。次世代を担う児童・生徒達に盲導犬と視覚障害の正しい情報・知識を提供する。

② 視覚障害者サポート・盲導犬受け入れセミナー

小売店・飲食店・宿泊・医療機関・交通事業者向けに実施。視覚障害者への適切な情報提供や移動支援、障害の捉え方について講習し、視覚障害者を取り巻く社会環境整備と受け入れが当たり前となる地域づくりを目指し、理解を深める。

③ ふれあい広場

大型商業施設の協力を得て、盲導犬とのふれあい活動や盲導犬デモンストレーションを実施し、多くの方々への理解を促進する。

④ 団体での啓発活動

盲導犬ユーザー・ボランティアと街頭に立ち、啓発活動を展開する。通行する方々へメッセージを発信し、盲導犬事業への理解に努める。

⑤ 首長訪問

盲導犬ユーザー在住の首長訪問を行い、住みやすい街づくりの協力を依頼する。

また、報道機関の協力を得て、多くの市民に情報発信する。

⑥動物介在活動（AAA）・動物介在療法（AAT）

全国の病院・福祉施設等への訪問を実施。犬とのふれあいを通じて、入院患者、入所者への動物介在活動を行う。また医療機関での動物介在療法に協力、発展に貢献する。

⑦アドボカシー活動

盲導犬ユーザーから「受け入れ拒否があった」「当事者では解決できない」という訴えに対し、問題解決の対応を積極的に行う。

⑧その他

第28回 盲導犬育成チャリティゴルフ大会を開催

開催日 10月20日（火） 会場 厚木国際カントリー倶楽部

(3) 広報

①メディアでの広報活動

協会の活動、視覚障害への理解を求め積極的な情報発信を展開する。

②会報誌「盲導犬くらぶ」の発行・発送

年4回各5万部の会報誌「盲導犬くらぶ」を発刊する。一部記事をHP、SNSと連動させて動画での情報配信も展開していく。

③ホームページ・電子コンテンツ運営

支援者管理システムの改修に伴い、連動するHPのシステム改修を行い、より利便性の高いサイトにする

動画配信他各種SNSを活用した情報発信力を強化する。

④情報管理

情報管理を徹底しリスク管理を強化する。

6. 関係団体協力事業

(1) 日本盲導犬協会ユーザーの会、ボランティア委員会との協力・連携を深め、協会事業の発展と事業の質を向上させる。

(2) 全国盲導犬施設連合会、全日本盲導犬使用者の会、アジア・ガイドドッグ・ブリーディング・ネットワーク（AGBN）など盲導犬育成関連団体との関係強化と相互発展をはかる。

(3) 日本盲人社会福祉施設協議会、日本視覚障害者団体連合、日本盲人福祉委員会、視覚障害リハビリテーション協会、日本身体障害者補助犬学会と連携し、県市社会福祉協議会、介助犬育成団体、聴導犬育成団体等およびその他視覚障害関係団体と協力し、福祉事業としての一層の充実と発展をはかる。

(4) 国際的な協力関係

国際盲導犬連盟（IGDF）に理事およびアセッサーを派遣し貢献する。各種交流を通して国際的な協力関係を強化する。

7. その他

(1) 未来構想推進（井上ビジョンの展開）に基づき次の諸活動を行う。

- ① 盲導犬コミュニティハウス（仮称）開設に向けた活動を行う。
- ② 東京大学盲導犬歩行学連携講座において各種研究活動を行う。

(2) ACジャパンによる「支援キャンペーン」の実施。2019年度は6月30日まで。2020年度は盲導犬啓発を目的とした広告活動を7月1日から行う。

(3) 人材育成

- ① 自由研究・調査、自己啓発、QCサークル活動を積極的に応援し、12月に協会内の研究発表大会を開催する。さらに、協会内発表を経て、各種学会やセミナー等へ積極的に発表する。
- ② 福祉に携わる職員のための研修会や同行援護従事者研修に職員を派遣し、視覚障害福祉に必要な知識と技術を習得させる。
- ③ 人財を生かすキャリアパスプランを作成し現任者教育の充実を図る。

(4) 東日本大震災支援

被災地域にあるスマイルワン仙台において、震災被災者への各種講習会や必要な更生相談、リハビリテーション支援を行う。

また、日本盲人福祉委員会が行う東日本大震災被災者調査や大災害時における視覚障害者支援事業に協力する。

(5) 協会ICTインフラの活用

働き方改革を支えるICT・RPA導入・整備3年目。勤怠管理システム、ワークフローシステムの導入、全職員スマートホン配給・通信システムの更新、協会運営データベース（DB）、訓練部DB、寄付管理DBのブラッシュアップ、全システムのクラウド化およびRPAの運用など次世代型ICTインフラへの入れ替えを行う。

(6) 事業継続計画（Business Continuity Plan）

災害に強い施設づくり、ICTを活用した職員および盲導犬ユーザー安否確認システムへと見直す。